

少年センターだより

発行
 日野町少年センター
 HSC
 日野町河原1-1
 TEL0748-53-1325
<https://syonen.jp>


ネット依存傾向 小学生段階で全国平均を上回る！

昨夏に日野町の小中学生を集めて、スマホサミットが開催されました。事前のアンケート結果を見ながら、兵庫県立大学の竹内先生を始め、竹内ゼミの学生、町内の小中学生がスマホについて深い学習を積んでくれました。しかし、

ここから見えてきた日野町内の子どもたちの実態は驚くべきものであり、今こそ日野町の大人も子どもも一緒にになって考えていかなければならなりません。

竹内先生には、去る28日の「子育て講演会」にも講師としてお迎えしました。また、今号の少年センターだよりに寄稿もしていただきました。



兵庫県立大学竹内和雄先生

の13.6%、中学生の11.3%が「ネット依存」でした。

日野町のような、のどかな地域の子どもが全国平均と変わらないことだけでも驚きですが、小学生段階で、すでに中学生の全国平均を超てしまっていることは驚きです。子どもたちにいったい何が起きているのでしょうか。

帰宅後一番にすること(日野町)

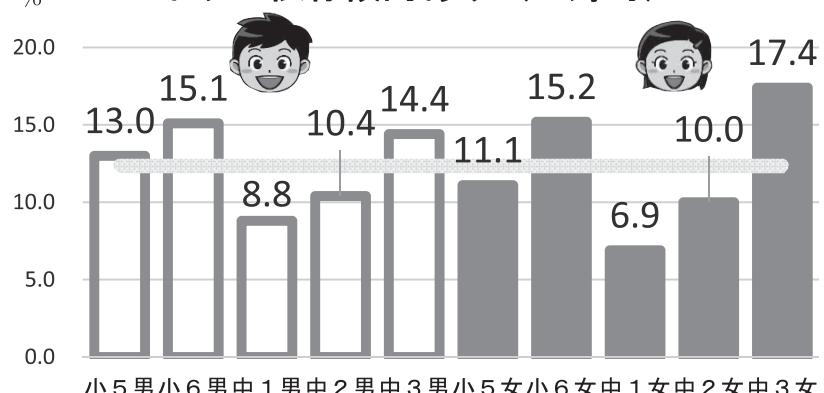
	■ネット	■テレビ	■遊び(ネット以外)	■勉強等
小4	47.8	26.1	21.7	4.3
小5	47.2	17.6	14.8	20.4
小6	59.5	10.5	15.3	14.7
中1	68.3	12.0	10.8	9.0
中2	69.6	9.6	13.3	7.4
中3	76.3	8.9	5.2	9.6

兵庫県立大学の竹内です。2022年春、日野町の小4～中3の806名対象に、ネット利用についてのアンケート調査を実施しました。驚く結果でした。私は、文部科学省でこの種の問題の有識者会議の座長等、国や自治体の多くの機関と関わっていますので、ある程度、知識はあるつもりですが、それにしてもこのアンケート結果には驚愕しました。

例えばネット依存の状況。2018年、厚生労働省の調査班は、アメリカのキンバリー・ヤング博士の質問紙を使って、ネット依存の割合を調べました。その結果は、中学生12.4%がネット依存だとされています。

その調査と同じ質問を日野町の子どもたちに実施したところ、小学生

ネット依存傾向あり（日野町）



前ページのグラフから明らかなように、学年差はあるものの、小学生で依存傾向のある子どもは、全国の中学生の平均を上回っています。調査対象が少なくてグラフ化はしていませんが、小学校低学年になればなるほど依存傾向は高く表れています。



夏に日野町で開催した「スマホサミット」の場面で、このグラフを小中学生に見せて感想を聞いてみました。「小学生はゲームにはまっている」「コロナで外で遊べないからオンラインゲーム」と聞かせてくれました。子どもたちの言う通り、コロナ禍の影響も強いと思います。また、ある女の子は「女子では中学校3年生が一番多い。理由はSNSだと思う」と話してくれました。中学生になると、SNSでどういう発言をするか、非常に重要と教えてくれました。

先日の講演会では、中学生、先生、保護者をパネラーに迎え、日野町の子どもたちとネット事情について考えました。

子どもたちに相談してもらえる大人にならなあかん！

所持率や時代の流れはもちろんですが、学習や仕事にまでネットを必要とし、それがないと生活できなくなってきた。実際に日野町の中学生スマホの所持率は80%を超え、小学校4年生でゲーム機やスマホなどを使ってネット接続をしているのはほぼ全員です。また、学校からの帰宅後、すぐにネットをすると答えた子どもの多さと同時に、勉強をしている子どもの少ないと驚いています。

さらには、日野町の子どもたちで、一日に4時間以上ネットに接続している率が25%、約4分の1です。調査結果では、4時間以上ネットに接続している子どもは、夜12時以降に寝る子が多く、よくイライラすることがあります。そして、勉強に自信持てなくなるという結果が出ました。

この状態を見て、中学生の子どもたちは、「わかっていてもやめられない、依存状態」だと言います。「だからこそ、小中学生の間は、子どもの考え方や意見を取り入れながら大人と一緒にルールを作ってほしい」とも言います。大人の考え方を押し付けるのではなく、しっかり話し合ってほしいと子どもたちは思っています。

子どもたちは使いすぎだということはわかっています。ネットの怖さも知っています。でもやめられないんです。これは、本人だけ、家庭だけの問題ではありません。日野町全体、社会全体の問題です。困っている子どもたちを助けるには、大人に相談できる環境を作らなければいけません。

まずは、子どもたちに相談してもらえる大人にならなあかん！

竹内和雄先生

兵庫県立大学環境人間学部准教授。現在、人間形成コース（教職担当）に所属しております。公立中学校で20年間、生徒指導主事等を担当。2012年より現職。生徒指導を専門とし、ネット問題、いじめ、不登校等、課題を持つ子どもへの対応方法について研究しておられる。

文部科学省学校ネットパトロール調査研究協力者、総務省（近畿総合通信局）「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会」座長など、多岐にわたって活躍されています。今年度、日野町の小中学生に「スマホサミット」を開催していただき、日野町の小中学生と交流しながら助言をいただいている。



ひきこもり・不登校などで、ひとり 悩んでいませんか？

NPO法人 スープル



「誰の人生にもいろいろあって。人生、ふとしたきっかけで立ち止まつた若者たちにそっと寄り添い続ける。そんな場でありたいと思っています。」と活動を続けるNPO法人スープル。生きづらさを抱える若者たちに寄り添って、大きく分けて4つの活動をされている。

家庭以外でホッと一息つける居場所づくりとして、「青年の居場所ピース」「滋賀ひきこもり女子会」「ほっとスペースのびのび」を運営されている。また、働く体験の場として「やさしいコッペパンやさん」（日野駅前）を開店されている。さらに、「ピース子ども食堂」などのボランティア活動も、若者たちと一緒に積極的に行っておられる。そして、臨床心理士や精神保健福祉士による相談・訪問活動にも力を注いでおられる。

代表の坂原美津子さんに話を聞くと「相談者と支援者という関係ではなく、同じ立場の関係性を保ち、若者たちの発案を大切にし、共同運営しているという意識で活動している」とおっしゃっていた。すべての人が、誰かを元気にしながら、自分も元気になれる場所づくりを目指しておられることが伝わってきました。

こんな場で、こんな思いが広がれば、若者だけでなく、だれもが生きやすい地域や社会につながっていくはずです。

【問い合わせ先】

NPO法人スープル
代表：坂原美津子
090-7874-3122
日野町内池 910-5

NPO法人スープル



やさしいコッペパンやさん



つぶやき

日野町内の学校でのスマホに関するアンケート結果では、全国の平均値を大きく上回り、もはや危機的な「ネット依存」の状況であると、今号の巻頭を書かれた兵庫県立大学の竹内先生は心配されていたそうです。このような中、静岡県では、スマホをめぐる悲惨な親子トラブルのニュースがあり、世間を震撼させました。

スマホは身近なもので、大人はもちろんのこと、小中学生にとっても、なくてはならないツールとなっています。

『スマホを持たせるべきか』という話はもう古く、『子どもとスマホの利用について話し合う時間を持つことが大切。『スマホといかに賢くつきあうか、スマホは便利なツールだが、依存すると大切なものを失ってしまう。』』ということを、大人の一人として子どもたちに伝えたいと思います。

少年補導委員 田上 真由美



防犯教室ペーパーサート公演を3年ぶりに開催

日野町少年補導委員会では、幼稚園児・保育園児を対象にペーパーサート（紙人形劇）を活用した防犯教室を開催しています。

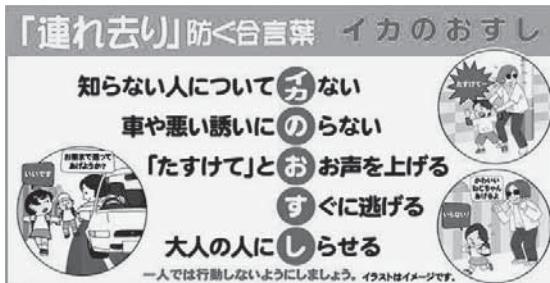
新型コロナの感染が心配された令和2年度、3年度は防犯教室を行うことが出来ませんでしたが、今年度は桜谷こども園を皮切りに西大路幼稚園と南比都佐幼稚園で開催することができました。

開催できないときは、いつでも幼稚園等に行けるように練習を重ねてきました。そして、ようやく新型コロナ感染拡大が収まりつつある秋から、子どもたちの前で防犯教室を行いました。

演目は「知らない人にはついていかない」で、わかりやすくペーパーサートで演じています。ペーパーサートの後は、警察の人から連れ去りを防ぐ合言葉の「イカのおすし」の話があり、少年補導委員による恐竜とくまのキャラクターが手振りを交えながら伝えていきます。

子どもたちは、真剣な態度で臨み、「イカのおすし」を楽しみながら学習してくれました。

来年度も、知らない人にはついていかないことを伝えるため、防犯教室（ペーパーサート公演）を行っていく予定です。



薬物乱用防止教室開催

町内小学校6年生を対象に薬物乱用防止教室を日野ライオンズクラブ、東近江警察署、日野町少年センターが協力して行いました。子どもの頃からの酒、たばこの危険性や、薬物乱用の怖さ等を伝え、危険な薬物を勧められたときにしっかり断る勇気を持つ大切さを知ってもらいました。

少年センターからの話の後、東近江警察署、日野ライオンズクラブから、インターネットなどの普及に伴い、薬物乱用に関する事件や事故が、すぐ身近なところまで迫ってきてることをお話いただき、薬物の怖さを改めて学習してもらいました。



南比都佐小学校の児童の声

- 薬物は1回使うことや持っただけで犯罪になってしまうと知った。
- 薬物は危険だということが分かったし、だれに何を言われても薬物をもらったり使ったりしてはいけないということが分かりました。

ひとりで悩まないで まずは相談を！

日野町少年センター



少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○来所相談 ○電話相談 ○メール相談

○来所・電話：月～金 9:00～16:30 ○日野町勤労福祉会館 2階

電話：0748-53-1325 E-mail：hino@syonen.jp HP：<http://syonen.jp/>